

# 答 辞

愛知産業大学工業高等学校の学び舎にも、春のやわらかな陽ざしを感じる季節になりました。

本日、ご来賓の皆様、理事長先生をはじめ諸先生方、在校生の皆さん、また、保護者に温かく見守られながら、このように盛大な卒業式を開催していただきましたこと、本当にありがとうございます。皆さまからいただきました励ましのメッセージを胸にとどめ、これから未来を生き抜く心の支えにいたします。

思い返せば3年間「気をつけて行ってらっしゃい」という家族の励ましに支えられた毎日でした。何気ない日々の言葉に力を得て、今日の日を迎えることができたような気がします。

ひとつのことばで けんかして  
ひとつのことばで なかなおり

ひとつのことばで 頭が下がり  
ひとつのことばで 心が痛む  
ひとつのことばで 楽しく笑い  
ひとつのことばで 泣かされる  
ひとつのことばは それぞれに

ひとつの心を持っている  
きれいなことばはきれいな心  
やさしいことばはやさしい心  
ひとつのことばを大切に  
ひとつのことばを美しく

これは、谷川俊太郎さんの詩です。家族から私にかけられた一つひとつの言葉が今、心にしみます。改めて、ここまで育ててくれたことに感謝の気持ちを伝えたいと思います。

ありがとうございました。

私たち卒業生は、この三年間、多くの人と出会い、様々なことを学びました。入学当初は思春期真っ只中で、先生や親の言うことに素直になれず背を向けて、幼い考えをしていたこともありました。しかし、私たちそれぞれが就職に進学にと、人生の岐路に立ち、悩みや苦しみを乗り越えて、ひとつの進路にたどり着いた今、大人への扉を開くことができました。部活動や資格取得、生徒会活動にボランティアと、活躍するフィールドはそれぞれに違っていても、学校には私たちが成長でき

きる多くのステージがありました。私は、バスケットボール部で全国大会出場の夢はかないませんでした。友と励まし合い、競い合うことの尊さを知りました。きつと、一生の財産になるはずです。

「社会から喜ばれる人間になろう」

私は、毎朝誓いの言葉で唱和するこの結びの表現が好きです。初めてこの言葉に触れたのは、新入生オリエンテーションのときでした。最初は、「社会から喜ばれる」という意味が、相手の価値観に

合わせているようで好きになれませんでした。でも、日を経るにつれて、相手から歓迎される生き方であることに気づきました。人の役に立ち、社会に貢献できる素晴らしさを示した言葉だったのです。社会から喜ばれる生き方……。卒業してからも、人生のテーマになることでしよう。

さて、私たちを待つ「社会」は、常に変化してとどまることはありません。この数年間に起こった私たちの国の大きな変革を見ても、日銀のマイナス金利導入、国民一人ひとりに割り振られたマイナンバー制度、そして、昨年秋には、選挙年齢引き下げに伴い、私たちにとって初めての国政選挙となった衆議院議員総選挙など、校挙に暇がありません。そう考えますと、「社会から歓迎される」生き方とは、誠実で勤勉な人柄を備える普遍性に加えて、世の中の変化に対応できる柔軟な発想力と適応力を持つ必要があると言えそうです。新しい時代を生きる私たちに提示されたこの命題を胸に、愛知産業大学工業高等学校の卒業生として誇りを胸に、堂々と人生を歩んでゆくことを

お誓い申し上げます。

最後になりましたが、母校の今後ますますの発展と、ご来賓の方々をはじめ、理事長先生、校長先生、そして諸先生方、また、在校生の皆さんのご健康とご多幸をお祈り致しまして、答辞とさせていただきます。

平成三十年二月二十八日

卒業生総代 新里 璃央